

シリーズ研究所紹介 その④

中部地方産業研究所長 福井 幹彦

中部地方産業研究所（以下中産研）の研究活動について、この紙面を借りて中産研の今年度の主な共同プロジェクト研究について簡単に紹介させていただく。

大学の付属機関である研究所は本来学際的な共同研究がふさわしいと考え、1996年より中産研の研究活動は受託研究、研究所予算ともに共同研究を原則として今日にいたっている。今年度は4本のプロジェクトがある。

プロジェクト(1)は「地域経済共同プロジェクト研究」で責任者は伊藤靖徳教授である。この共同研究には①愛知県内企業の海外展開に関する調査と②本学OBを中心とした企業・起業経営者、地方行政首長などの聞き取り調査を予定している。(1)-①に関しては、この8月にアンケート調査を行い、現在データ入力・集計を当研究所で実施し結果の分析に入っているとこころである。年度内に研究発表・公開シンポジウムを計画している。

プロジェクト(1)-②については、企業経営者と行政首長の聞き取り調査を予定している。この聞き取り調査に際しては、担当所員のゼミナールの学生も同行させ、学生にも聞き取り、質問する機会をもうけ参加させることも計画している。この内容は2003年度年報「中部の経済と社会」に初企画として掲載することになっている。

次にプロジェクト(2)は「中部と東アジア共同プロジェクト研究」(2年継続)責任者樋口義治教授で、今年度は日本・韓国・中国の「大学生の起業家などに関する意識調査」を企画した。調査に協力した日本の学生は、愛知大学豊橋キャンパスの経済学部を中心とした学生諸君と、東京、長野、四国の社会科学系4大学の学生諸君である。韓国はテグ地域の社会科学系大学の学生諸君であり、中国は北京、西南、福建、南京の主として社会科

学系大学の学生諸君である。調査票数は日本1291、中国1255、韓国479である。

そしてプロジェクト(3)は「国際共同シンポジウム」(2年継続)責任者福井幹彦は、さきのプロジェクト(2)とリンクしてこの日中韓の大学生の起業家などに関する調査結果をもとに年度内には中国、韓国の研究者の参加を得て、国際共同研究シンポジウムの開催を計画している。

最後のプロジェクト(4)は「三遠南信地域



長野県新野にて調査員(学生)と共に

におけるソーシャル・キャピタル等に関する共同研究プロジェクト」(2年継続)責任者岩崎正弥助教授である。この共同プロジェクト研究は1996年より「山間地域の自立・内発的發展とネットワークの可能性」をキ概念として以後8年間継続して今日に至っている三遠南信地域の主として中山間地域をフィールドとした共同研究である。

このわれわれの中山間地域をフィールドとした共同プロジェクト研究の特徴は、共同研究者に学外の人々、ここでは市町村の行政マンや市町村民の参加である。つまりここでの共同研究は、産官民学による共同研究であり、中産研における研究方法としての共有財産であると自負している。さらに今年度は聞き取り調査の調査員に岩崎ゼミ、福井ゼミのゼミ生を起用してみた。この「ゼミ生の参加によるフィールドワーク」は今後の中産研の共同研究に積極的に組み入れていきたいと考えている。

プロジェクト(4)-①の岩崎チームは中山間地域の過疎村のソーシャル・キャピタルの確認と育成を地元住民とのワークショップを通じて試みるという新しい研究を本年度は豊根村(愛知県)、売木村(長野県)で実施し、今年度の成果は、売木村のご要望もあり、年度内に同村にて村民の皆さんの前で研究発表とシンポジウムを開催する予定である。